

PRESTO® A30

6Lのガラス反応容器を +20℃から最低到達温度まで 冷却運転

目的

このケーススタディのテストでは、PRESTO®A30と6Lのガラス反応容器を接続して、最大冷却試験を行っています。PRESTO® A30 は2mのメタルチューブで接続されています。PRESTO® A30は、+20℃から最大までの冷却運転を行っています。

環境

室温 +20 °C
湿度 45 %
電源 230 V / 50 Hz

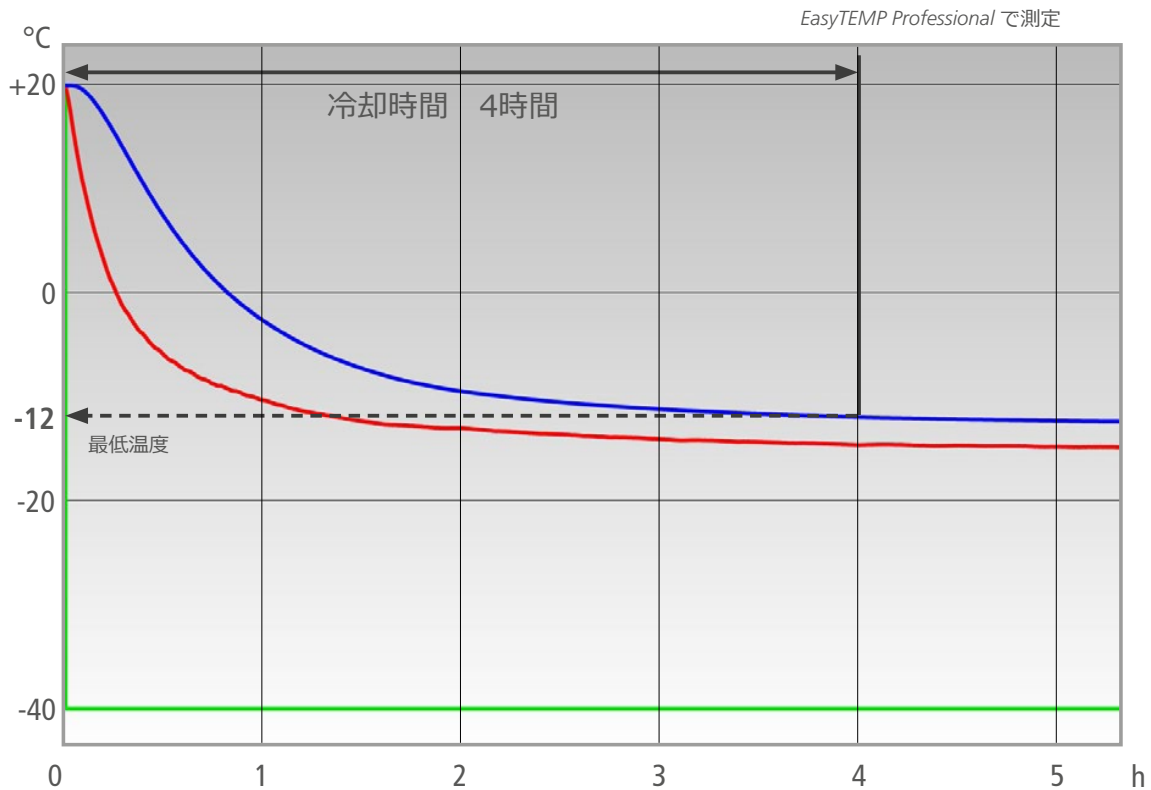
試験条件

使用機種	PRESTO® A30
冷却能力	+20 °C 0.5 kW 0 °C 0.4 kW -20 °C 0.2 kW
加熱能力	2.7 kW
バンドリミット	設定していません
ポンプ圧	0.5 bar
循環液	ユラボ社製 サーマルHL60
反応容器	6Lガラス製反応容器 (QVF) (容器内にはユラボ社製 サーマルHL60を 5L充填しています)
ジャケット容量	4.5L
温度制御	外部制御(ICC)



試験結果

PRESTO® A30 は、+20℃から最大-12℃まで冷却するのに4時間で到達しました。



- 設定温度
- ガラス反応容器内温度
- ガラス反応容器ジャケット温度

その他機能

M+Rインラインセンサーを組み込む事で、追加して温度を表示し記録することが可能です。



その他機能

無償版のEasyTEMPソフトウェアを使用することにより、PCで装置をコントロールしたり温度データを画面上に表示させることが可能になります。

EasyTEMP

